

議長／皆さん、おはようございます。

前日に引き続き、本日の会議を開きます。

それでは、日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は、4番 山口 等議員の質問まで、終わりたいと思います。

それでは20番 牟田議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

20番 牟田議員

牟田議員／議長より登壇の許可をいただきました。

質問を開始します。

この絵は、昨日、議会の、借景（？）が悪くなるんじゃないかと言われた、大楠公園のライトアップです。

これはものすごく借景（？）の後ろ見えなくても、こうやってライトアップするとすごく幻想的できれいです。

逆に執行部のほうがこたえられましたが、バイパスから見た昼間の借景（？）は絶景です。大楠公園の今までの欠点として、主要道路から全く見えなかったとありますが、今度からは主要道路から八幡岳をバックに、すごい絶好の借景（？）でみていただけたと思います。きょうの質問、1番、定住、2番、害獣、3番、まちづくり、4番、行革、これでやりたいと思います。

この大楠のライトも、地元の人がつくってくれたライトです。

一番最初いきますが、きょうの質問のキーワードは、1964年、昭和39年。

1964年はどういう年か、1964年はヨシカワ副議長と私の生まれた年ですね。

実は、オリンピックの年なんですね、1964年は。

今、議場から出ましたオリンピックという年ですが、オリンピックと同時に、もう一つありました。

これはここで何度か言ったことあるかもしれませんが、オリンピックで景気（？）がおかれています中、こそっとじゃないですが、木材の輸入化がはじまりました。

自由化、TPPの先取りですね。

この年から、昭和39年から関税がかからない木材が日本に入るようになりました。

それで、5年後の昭和44年には、国産材と外産材（？）の国内使用量が逆転したんですね。

5年で国内はもう半分になった。

今現在は、8割以上が外国です。

残りの2割弱が、国産材となります。

国産材も、県や国からの補助で国産材を使えば、これだけ補助をやりませんでしたから、その20%を何とか保っている部分があります。

きょうの質問の中でも、イノシシ対策、まちづくりと入れていますので、山が荒れたのは

この年からです。

林業が成り立たない、山に人が入らない。

東京オリンピックの年でもありますけど、木材の輸入の自由化が始まりました。

この年の最後に、責任をとって、この責任じゃないかもしれませんが、内閣総辞職されました。

1964年、キーワードはまだまだ続く。

その年にジョンソン大統領というアメリカの大統領が、議会の一般教書で、貧困との連鎖を断ち切るために、それと戦うという宣言をされました。

つまり今武雄市が、小松市長を中心にやられていますが、貧困対策をこの年からジョンソン大統領が、腰を入れてやるよということで一般教書と言われました。

次1964年、よくラジオで子どもラジオ相談室というのが今でも続いていますけど、これもこの年から始まったんですね。

母子寡婦福祉法、今で言うひとり親家庭です。

ひとり親家庭の補助の施行がこの年から始まりました。

今、何となく、今の、御時世に少しずつ何かにかよるところがあると思います。

国鉄が、この年から初めて、コンピュータで予約受け付け開始した。

今まで電話と手作業だったんですね。

それを初めて国鉄がコンピュータによる、今まで手作業でやってたのが、コンピュータに変わったのが1964年。

海外旅行の自由化も1964年。

これは今までは商業目的でしか海外旅行に行けなかったのが、この年から一般の観光でも行けるようになったのが、1964年です。

こうやって、何となく今の御時世と\*\*\*ものがあるような感じができます。

武雄市はどうなのか。

1964年の武雄市はどうなのか。

1964年の武雄市は市制施行10周年を祝っていました。

今も市政施行10周年でちょうど、同じような感じですね。

これは僕は、場所がわからないんですね。

市政施行10周年って、写真だけちょっと見つけたのですが、これは西浦ですかね、宮野町ですかね。

現在も、市政施行武雄市10周年施行、1964年も新市政施行の10周年。

さらに消防本部設置も設置された。

今消防本部設置、移設されていますよね。

まさにきのうの質問に出た、武雄中学校の校舎の落成が完成して、落成が1964年でした。

そのとき、質問、上田議員さんでしたかね、が質問された門ができたんじゃないかね、多分。

その中で、一番下を書いてある、1964年、昭和39年、北方の炭坑が閉鎖された年です。この年から北方町、大きく転機となった年になります。

その後、何とか転機をしないとけないということで、北方町の皆さん、そして特に松本町長さんは長い間、先陣を切って、\*\*\*の働きをされていたと思います。

それで今に至っています。

こうやって1964年のこといろいろあって、今度の質問に似通った部分がいっぱいあるのでいろいろ紹介しました。

一つ目の質問です、定住対策に対して。

定住対策ですが、今まで私は、毎議会ごとに定住対策をお願いしますと。

周辺部の人口減ってます。

これは全国的なものですが、一極集中化というか、例えば九州なら博多、福岡、東北なら仙台と、そのように集中している。

東京は東京、大阪は大阪ですが、そういう中で定住対策をお願いします、移住対策をお願いしますといろんなところでいっています。

特に九州は、これも上田議員さんだったかね、先日の質問で計画よりも相当数減っている。国でも一緒に、九州の人口は、特に加速度的に進んでいる。

そういう中で、移住、定住を本当に腰を入れてやっていただきたい。

いろいろ質問してまいりましたけど、この移住対策、年度末までには、きちんとした答えを出します、そして方向性も出しますということですが、今現在、どの程度進んでいるのか、周辺部は疲弊しているところがだいぶ多いです。

これから\*\*\*対策でも、\*\*\*でも、いろんな部分、道路対策、河川対策、周辺部人口減のところが多いです。

そういう中で、どれぐらい対策の、方策の計画が進んでいるのか、これをまず1点目にお伺いします。

よろしくをお願いします。

議長／北川総務部長

北川総務部長／おはようございます。

定住対策については3月、6月、9月と継続して御指摘をいただいているところです。

9月議会でも、この定住対策についてはこれまでの対策に加えて、新たな対策も必要じゃないかと御指摘を受けて、年度内に新たな制度設計をした上で、来年から始められればと、これまで検討してきたところです。

2点ありますが、一つは、空き家バンクはあるが、空き地バンクを、土地も含めて御紹介していくことができればということで、今、市内に50件近くのリストをアップして今、オーナーさんに確認していて、これについても空き家、空き地バンクという形で、御紹介が

4月からはできるものということで、準備を進めています。

それからもう1点、新たな定住、移住対策の支援策がないかということで検討してまいりました。

昨年、ウェルカム武雄ハウス事業ということで、武内若木町のほうに住宅を新築し、移住対策をとってきたところですが、これにつきましては、6世帯合計21名の入居を実現して、周辺部の人口減少の一助になってきたかと思います。

ただ、住宅建設の補助、あるいは用地費、造成工事費等も含めて、4,500万円ほど費用を要しました。

これについては、今後の持続的な事業というには、非常に、\*\*\*的に重いものですから、厳しいのではないかという検証もしました。

また、新たに、市がこういった、市内で空き家がふえていく中で、新築住宅を市がどんどんつくることについても、逆行するものがあり、すでにある空き家、空き地を率先して利活用する方法がないかということで検討しました。

その空き地や、空き地バンクに加えて、現在ある定住特区補助金を、新たな形をこういったところで支援できないかということで、見直しをしてきたところです。

主な内容については、これはスキームということで御説明しますが、1つは周辺部での住宅購入について、空き地バンクで土地の御紹介もしますが、土地の購入に対しても支援ができないかということで、その補助に対するどれだけの程度、含めて検討しています。

それから定住特区補助金では奨励金と、住宅の改修費用を支援していますが、この限度額が小さいのではないかということも含めて、この上限額の引き上げについても考えております。

それから新たに、若い世帯に対する、新婚世帯といいますか、補助の追加もいたしております。

もう一つですが、これは支援策ではないですが、現行の定住特区の支援については、周辺5町、武内、若木、橘、東西\*\*\*に加えて、山内北方ということで支援をしておりますが、山内北方の中心部を除いたところは、周辺部の人口減少の激しいところに、一部指定地域を見直して支援していきたいと、そういう見直しをしています。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／こうやって着々と進んでいると聞いて、一つ、安心しております。

空き家バンク、空き地バンク、こういう形で進めていただけるといっていますが、先ほどの数字、50カ所程度という、多分市内は50カ所程度じゃないと思うんですね。

0が1つ足りないというぐらいあると思います。

武雄市はことし、住みたい田舎ナンバー3だったですかね、1位、2位があつて、3位でした。

1位のところ見ました。

1位は鳥取県だったですかね、どこか、\*\*\*、町が2位入ったんですね。

そことかですね、こういうふうな移住政策でやっぱPRがものすごくできていました。

そういう中で、武雄市もこうして基本ソフト(?)が出てくると。

ものすごくやっぱり市外、県外の人たちは見られているようです。

空き地バンク、空き家バンクとか、それを調べてみて、そこをクリックすると周辺が見えて、どういう、たとえば、間取りがどうか、区画がどうかとか、きちっとみられて、Googleストリート使えばまわりの借景(?)も見れるので、そういう部分もあると。

ぜひそういうふうなことをさらに、さっきの50カ所ではなくて、調査というか、やってほしい。

そして、情報をそういうふうにシェア、情報のシェアというか、どんどん広げる形でやっていただければ、定住移住がさらにふえる可能性があると思います。

ぜひやっていただきたいと思いますが、市長、その辺のところはいかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／おはようございます。

先ほど部長から話があったのは、例えば、ウェルカムハウスに来てもらって、そこから、じゃあその土地をさらに知ってもらって、今度は家を買って定住してもらって、そういう流れを今後つくる、そこには周辺部に対する手厚い補助をして、とにかく今、周辺部を含め住める環境を、移住できる、しやすい環境を整えていくところだとおもっています。

さきほどおっしゃった、住みたい田舎ランキング、今は3位ですが、ぜひ、それ以上を目指していきたい。

来年に1位、そこを目指して、先行事例をしっかり分析すればおのずと上がると思っていますので、たしか島根県の町だったと思いますが、しっかりと分析し、お住もう課の組織、ここでもしっかりとPRを今後さらにしたいと、そのように考えています。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／ありがとうございます。

そうやってハードソフトを固めていただければ、先ほど言いましたように、移住定住がふえると思います。

あともう一つ、例えば北方町でこの前聞いた話、民間と一緒に中心部を開発していて、それがものすごく活況していると。

民間の力に行政がサポートして、それをものすごくやっている。

やっぱりあとは民の力もかりて、ぜひやっていただきたいです。

今、周辺部、周辺部と言ってますが、中心部もいろいろ問題あると思います。  
そういう中で周辺部、また進んでいるので、身につまされる部分で、皆さん方に訴えさせて  
いただいています。

こうやって議会を、たとえば、今私が質問していますが、こうやってほかの議員さんの話  
を聞いていると、先日出た\*\*\*施策、道路河川の部分は町のほうが、市が全部やってく  
れるけど、周辺部は区役所が何とかでしないといけない、グレーチング1つにとっても自  
分たちでやらないといけない、コンクリも、草刈りも。

そういう中でいろんな問題が出てきます。

さらに交通政策の部分で、免許の部分が、これも数多く出ています。

免許の返納にもなって、足の確保も必要です。

みんなのバスはそれに担う部分だと思いますので、ぜひそういう免許返納云々とあわせて  
そういうふうな足の確保まできちんと並行して考えていって、周辺部対策、定住対策をし  
ていただければ幸いです。

では次の質問です

すみません、こういうのがあるという紹介です。

婚活事業。

これは、ここ何回か、きょうは紹介ですが、周辺部だけじゃなくて市全体でも、多分国全  
体(?)でもそうかもしれないませんが、婚活事業はもう行政が力を入れてやっている部分が  
1つです。

これは、見えにくいんですが、\*\*\*。

でも、ここにゼクシィというのがあるんですが、知っていますか。

これと組んで、松浦市(?)はやっている。

めっちゃよくできています。

この冊子なんですけど、移住定住の政策まで全部書いてあります。

これは結婚のやつですが、松浦市はコラボしてやられている。

今度の土曜日は、鹿島の婚活団体ですが、武雄図書館を借りてやると。

武雄はどうかというと、武雄も実はこの前からこういうふうなしかけをされていて、幾つ  
かそういうふうなカップルじゃないですけど、出てきているらしいです、話を聞きました。

武雄も負けずにやってらっしゃるらしいです。

ぜひ3月議会ではその紹介ができるぐらい頑張っていたいただきたいですが、この婚活事業も  
できたら力を入れてやっていただきたいと思います。

これは質問ではありません、これは要望です。

よろしくお願いします。

次、2番にいきます、害獣対策。

これも大きな問題になっています。

害獣対策で検索すると、すごい数が出て来ます。

害獣対策でも、イノシシ、アナグマ、僕がつかまえました、何かわからなかったですね。写真撮って後で見ようと思いましたが、多分イタチだと思います。

ハクビシン、イタチじゃないですか。

これ、アップで写ってるんで、テンか、イタチか、ハクビシンかよくわかりませんが、\*\*くさいんですよ。

こういう害獣対策、でも、どっちかというといノシシですね。

イノシシも、周辺部、もちろん町中に対しても、ものすごい被害をしています。

例えば、山を歩いています。

近所の山、これ全部イノシシですね。

イノシシが食い散らかしたものです(?)。

これ、こういうあとなんです、このあとどうなるかという、来年雨降ると\*\*\*。

これも一緒です。

これはさっきと場所が違います。

こういうふうな感じで、ほじくり返している、人が入らない。

さっき言った1964年、山に人が入らなくなって、イノシシがどんどん来ている。

こういう感じで掘ります。

これ、根っこ掘って多分、ひょっとすると人間だったら掘ったら埋めるけど、イノシシ埋めないですよ。

これもそうです。

これ見てください。

これはU字溝なんですね、実は。

U字溝の中にこうやって入っている。

イノシシは農作物も、ここでは入れてました、これはみかんです。

みかん、めっちゃうまいんです、このみかん。

イノシシもわかるんですかね。

めっちゃおいしいミカンなんで、若木のみかん。

で、とられてるんです。

田畑の稲とかなんとかって、これも言うまでもないです。

これはうちの地区なんです、イノシシがあんまりほじくるんで、U字溝が埋まるので、自分たちで対策してこれをずっと、こっからさっきのそこから、続いています。

ずっと苦役で、ほじくると落ちる、落ちると水路が埋まる、水路が埋まると自分たちであげないといけない。

負の連鎖みたいな感じでやっています。

さっきいった農作物。

今のところ、武雄市はイノシシに襲われたというのはあまり聞かないですが、こういう形でもものすごい被害を受けてる。

こういう被害を受ける。

さっきいったインターネットで全国の様子を見ると、ある市は去年の予算の倍額つけたと。

例えばA市はことし倍額つけた、B市は補正予算で1500万プラスした。

そういう状況が続いてるんです。

そういう中で武雄市は、どのような方策をとられてるのか。

これはイノシシ被害で、ワイヤーメッシュ（？）というのがありました。

ワイヤーメッシュ（？）、一時期落ち着きましたが、まだまだ、戦いは続いている。

そういう中で、武雄市はどういう方策をとってるのか。

さっきいったように、何か質問する前にいいにくいですが、よそはどんどんイノシシ被害に予算を増額、補正予算でやってる。

武雄市も同じようにこうやって、イノシシ被害がものすごく多いです。

これはさっきいった土砂災害につながって、余計に予算を出さなきゃいけない。

そういう中で武雄市はどのような予算を考えているのかお伺いします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／おはようございます。

画像を使いまして、イノシシ対策について御説明します。

すみません、少し画像が動きませんので、申しわけありません。

御指摘のイノシシを中心にした有害鳥獣の対策ですが、現在、特にイノシシについては画像でごらんいただくように、3本柱を軸として対策しています。

捕獲は、90名程度の猟友会の皆さん方に御協力いただいて、捕獲活動を御協力いただいている状況です。

これについても国の制度等については、捕獲の奨励金等です。

もう一つは防除ですが、農地への侵入をふせぐために先ほど御紹介いただいたワイヤーメッシュ等の取り組みですが、これについては、ワイヤーメッシュ等の整備交付金、あるいはハコアナの貸し出し等、そしてまた猟銃免許（？）の取得補助等が、ここの防除という形の政策の中にあたります。

それから棲み分けですが、イノシシがよりづらい、棲息しづらい環境にするということで、先ほど紹介いただいたように、地域の皆さん方の御協力をいただいて、多目的機能支払交付金（？）や中山間の地域の交付金等をご利用いただき、政策を行ったりという状況です。

それから、こちらはアライグマ等、あるいはイタチ等が出没するというところで、地域の方から相談を受ける場合がありますが、そういう場合については、小型のハコアナを貸し出しをしているので、もしそういう御要望があれば、申しつけていただきたいと思います。

それから、そのほかとして、カラスについては、御承知のとおり、平成24年度から市内在住の鷹匠により、タカ、ハヤブサを使っていただいて追い払いをしていただいている状況

です。

最後に予算については、前年度の有害鳥獣の出没の頭数を見ながら、\*\*\*のための予算要求し、途中でふえる場合は、補正で対応させていただいている状況です。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／アライグマの箱の貸し出しはあったんですね。

こうやって、小さいのが。

これ私知らなくて、自分で買いに行って、これ、今みたら50基あるんでね。

結構貸し出しありますね。

これはもっとPRしたら、借りに来られると思います。

私も借りられるんですかね。

そういう中で、さっきいろいろ言われた、これは多分、よその市と全く同じ補助制度なんです。

国の補助制度一覧があって、いろいろ、いろんな補助制度があります。

今度環境省も、今出された農林水産省の、環境省が2023年までにイノシシ半分にすると宣言しました。

環境省さんが。

2023年までだったかな。

イノシシ数を半分にすると。

それぐらい国も力をいれている。

国の予算も、数年前に比べたら、例えばおとしが90億だとしたら去年は95億、ことしは100億、ずっと予算的にはふえてる。

そういう中でいろんな事業で、先ほど言われた農水省の補助もあるし、県の補助もありますから、ぜひ武雄市独自のやつもやっていただきたいと思います。

これはさっきも出した、イノシシ課(?)があります。

今はなくなっていますが、逆にこういうのを復活させてもいいんじゃないかと。

イノシシ課を復活させて、イノシシ課(害獣課)\*\*\*、それぐらい害獣には困ってるのが現状です。

予算的には市単独でも倍付けしているところがある。

そういう中で本当に、これ周辺部だけじゃなくて、困っていると思います。

ぜひ、独特のやつをやっていただきたい。

補助制度がいっぱいあるので、独特のやつをやっていただきたいのもあるし、もう1個、これは前、イノシシ料理やられていましたよね。

今もきちんとした国の補助政策で、レシピとかそういう部分で、補助が出るようになっていきますよね、補助制度。

これも、もう一つここで聞きたかったのは、いつも言われる毒餌をなんでやらんとして。われわれは、\*\*\*、餌をやらないと頭数自体は減らないのではないか。ここでも何回か言いましたが、それをやると、周りの環境に影響するんですよとか、それを食べて死んだのを、食べたのを人間が食べるとどうなるか。避妊剤が入ったやつを、それを人間が食べるとどうなるか、あいまいな答えしか受けていないんです。だからわれわれも聞かれると、こういうふうらしいですよ、らしいですよということしか言えないので、何で避妊剤入りの毒じゃないが、そういうのを置いたり、本当の毒、法的にだめなのか、法律的に抵触するのか、それを教えていただきたいと思います。

議長／井上営業部長

井上営業部長／御意見ありがとうございます。  
私どものほうにも御意見を頂戴しておりますが、実はイノシシの毒餌については鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、いわゆる\*\*\*保護法でございますが、その第36条に禁止されています。  
さらに、私どもとしては、本当にだめなのかということで、環境省の九州環境事務局に問い合わせをしました。  
そうすると先ほど御紹介いただいたように、ほかの動物が食べる可能性もあるということで、\*\*\*的に設置すると、希少(?)生物の影響の観点、それから土壤汚染も心配される等で禁止をしていると確認しています。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／法的にだめなんですね。  
\*\*\*法律で禁止した国がもっと、予算つけてこれをやらないといけない。もっと予算的にふやすのを。  
例えば、さっきいった、いろんな独自の案ができないか。  
イノシシはグレーチング、わからない(?)らしいですね、\*\*\*は。  
いらぬグレーチングが出たらそうやってやるとか。  
あとはもう一つ、ワイヤーメッシュがたってるのに、コの字型にもう一つワイヤーメッシュを入れてつかうと、これの強度が増して、こっからほじくっていかれない、そういうやり方もいろんなやつがあると思います。  
あとは、動物の、オオカミの尿の話も何度かしているが、そういうことに取り組んでいただきたい。  
そういうことを鑑みても、イノシシ課がなくなったが、専門チームも必要なくらい、それ

ぐらい、農作物被害にあわれています。  
ぜひよろしく願いいたします。  
市長の話よかですね、市長お願いします。

議長／小松市長

小松市長／ここは私の家では、アナグマ、モグラに悩まされているが、本当に深刻だと思っています。

2つ申し上げますと、1つは、武雄市だけが頑張っても、よそから、隣の市からイノシシがくるということもありますので、ここについては県全域で対策は必要ということで、県にも働きかけております。

予算獲得については、農水省からの補助金、実際に来る額が、年によって少なかったりするので、そこについてはしっかりと捕獲するインセンティブを、しっかりと市としても確保するというところについて、市長会等でも継続的に働き掛けています。

いずれにしても、これについては、やはり、非常に私も被害等を聞いているので、引き続き力を入れたいと、そのように考えております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／力をいれていただきたいと、市長の言葉の中でちょっとひっかかったのが、武雄市だけが頑張ってもよそから来る可能性、私、それをいったらなんでもあてはまると思うんです。

武雄市も頑張らないといけないと思います。

それで考えていかないといけないですが、まずは武雄市は頑張らないといけない。

農水省のホームページで紹介されているのは、佐世保の例、そして富士町だったかな、どこか忘れたが、例が載っている。

そこの自治体で頑張って、こういう施策をしますよという、独自のやつをやってるんで、載っていて、\*\*\*、確かに市長のおしゃることはわかります。

でも武雄市も頑張っていたきたいと、よろしく願いいたします。

次、もうサルもあれですが、爆竹で追い払うのがありますが、あんまり頭数が少ないので被害もないが、タカが苦手で、タカが来ると、彼女(?)が聞いた話では、高崎山、大分。逃げたサルをちゃんと戻すとかやっているらしくて、サルにも効果があるらしいです。

カラスだけじゃなくて。

これは紹介で次、3番、住みよいまちづくり事業なんですけれども。

1つ目、これ前からの質問の続きです。

障がいがある方用の駐車場、これは武雄市内、これも法律じゃないが、健常者がとめてい

るところ、どうですか皆さん、見ないですか。

健常者が停めている。

どうみても、若いカップルがとめてるとか、普通のおじさん、おばさんが停めているとか、このマークをつけないで、見るんです。

なんとかこれはできないか。

実際のところ、例えば、ボーリング場の近くのツタヤにこの前ちょっと行ったところ、ここに普通の人が停めている。

これをつけないでとめている、若い親子づれだったが、とめている。

それを見ている中、遠くに、あそこは結構おばさんが車を止められて、がらがら、車からおりて、がらがらのやつを遠くからいかれている。

その車には、これがついていたんですよ。

その遠くにとめた、がらがらのおばさんには。

健常者をなんとか、止めさせないという言い方はおかしいが、そういう方策がとれないのか。

例えば、条例でも罰則規定はあれかもしれないが、できないのか。

今は、昔の話ですが、東京でも大阪でもどこでも、くわえタバコって行ってましたよね。

当時ならとってすてていたのが当たり前だった、当たり前じゃないですが、していた。

でも今は罰則規定ができて、もう我々もそういうことができないというのがありますよね。

だから何とかこういう、例えば武雄市はこういう障がいをもたれている方にやさしい町ですと、それこそさっきいった、住みたい田舎のポイントにも、ポイント\*\*\*すわけじゃなかとぼってんですね、あまりにも多く目につきすぎると私は思います。

ぜひ、こういうふうな対策がとれないものか。

例えば、ツタヤの隣のスーパー、マックスバリューさんはここにポールをたてて、車がとまったらセンサーで、ここは障がいをおもちの方の駐車場です。

健常者をご遠慮くださいとスピーカーでいわれるんですね。

聞かないときもありますよ、聞かない人は聞かないから。

でも、だいぶあれは違うと思う。

例えば、そういうのを設置したところには補助を出すとか。

もう一つは、今言われました、\*\*\*。

今、都会の駐車場は NPO か何か、腕章つけて、10 時半になると民間で取り締まっていますよね。

タバコのポイ捨ても民間の人たちが見ていますよね。

だからそういう方策ができないのか、ぜひこれを考えていただきたいが、いかがでしょうか。

議長／井上くらし部理事

井上くらし部理事／おはようございます。

パーキングパーミット制度ですが、これについては、佐賀県で平成 18 年に初めて制度を導入して、現在、全国で 35 県が実施しています。

最近、佐賀県のアンケートを実施されたところによりますと、制度開始以前と比べて障がい者用駐車場を利用しやすくなったという評価はありますが、利用証の掲示のない駐車が必要にならないという課題が残っているようであります。

いわゆるパーキングパーミットの利用証ですね、その掲示のない駐車が多いということでの苦情があります。

その対策としましては、パーキングパーミット協力施設の管理者が行う、対象外駐車に対する指導(?)について、県に依頼するとともに、市としましても市内の対象施設については連携しながら、行っていきたいと思います。

規制については、皆さんおっしゃられるとおり、有効な手段とは思いますが、障がい者等への配慮という実践からは規制よりも、市民の皆さんへ、制度の理解を深める啓蒙活動を行っていきたいと考えております。

議長／20 番 牟田議員

牟田議員／ちょっと残念ですね。

武雄市自体で何かやれないかという質問だったんですけど、何かやっていないかと。

全部、県任せですね。

啓蒙活動をやっていききたいので、やる気ないですね、いいです。

次の質問いきます。

やさしくないですよ。

こんな御答弁だったら。

県だけじゃない、県にのっかってやるとか、利用率をあげるとか、そんな答弁、こういうの答弁ですか。

武雄市は何をやってるか、これから何をしてくれるんですかという答弁で、今の答弁だったら、もうやらないってということですね。

では、次の質問にいきます。

市長何かありますか。

啓蒙活動だけでは、ちょっと私は話にならないと思います。

議長／小松市長

小松市長／これについては、たしか国土交通省に聞きましたが、今は、見かけたら指導と

いうことをやってもらっていますけど、それに加えて、車に警告文書を貼るとか、これが非常に効果があると確か聞いた覚えがありますので、もう一度確認した上で、それが非常に効果的だったはずですので、そういったことをまず武雄市からやっていきたいと、そのように考えております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／今市長がいわれたとおりなんです。

今さっきの答弁で、本当は次のことを用意していました。

武雄市市役所では、とめているとべたべた貼りますよね。

駐車してます\*\*\*。

何でそれでよそができないんですかという質問を用意していたが、今市長がまさに言われてたんで、そういうのもやることで、いかがですか。

できると思いますよ。

市役所に停まっているのは、そうやってあたりかまわずやるのに、言い方失礼しました。

こっちは啓蒙しますで、私はそれが納得いなくてさっきちょっと怒ったんですけども、ぜひ、こういうこと今何も打ち合わせていないです。

やっぱりこうやって言われてたんで、ぜひやっていただきたいと思います。

お願いします。

よかです。

いや、じゃあお願いします。

議長／井上くらし部理事

井上くらし部理事／このパーキングパーミットについては、県と協力施設のほうで協定書を締結し、そして協力施設のほうでできるのが口頭指導と、注意喚起ということでして、市としても市の公共施設に関しては、そういう指導を行ってまいりたいと思います。

／公共施設だけ。

議長／静に。

／今おっしゃられましたように、民間のほうにも、協力を求めていきたいと思います。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／公共施設には、はって(?) いきます。  
民間のほうはね、さっきこっちからいい言葉ができました。  
民間と協力と、話し合えばいいんですよ。  
話し合ってますと、もしくはやってくださいと。  
なんでこういう答弁が出ないのか、不思議でたまらない。  
では次、これも前のやつです。  
これはあるコンビニエンスです。  
コンビニエンスの本コーナーの、いつもは多分、テンキ(?) だと思います。  
ずっとってこの辺に、成人誌がいつもあるんですね。  
成人誌が置いてあります。  
奥がトイレというような形で、多くのコンビニはそういうシステムだと。  
これは武雄市の川良のセブンイレブンさんなんですけど、成人誌は撤去しましたと。  
よく成人誌やビデオとかDVDとか売ってる自動販売機とか、たつと大騒ぎになりますよね。  
こういうのがたつた、何とか撤去しないと。  
多分、PTA 育友会の\*\*\*団体、しれっと(?) してもそういう話になってたんですね。  
でもそんなことよりも、コンビニのこのところに堂々と、子どものああいうほら、よく成人誌の自動販売機は、全部\*\*\*とかで周り囲んで、わからないようにしなさいときちっとできていますけども、コンビニは堂々と、子どもはかえませんよ成人確認がありますから。  
堂々と展示してあるんですね。  
例えば、TSUTAYA さん、TSUTAYA さんも多分、DVD コーナーあると思う、成人コーナー。  
でもきちんと隔離されていますよね。  
普通のレンタル屋さん。  
レンタル屋さん、ひょっとすると買う人が恥ずかしいから、隔離しているのかもしれませんが、やっぱり、こうやって隔離ちゃんとしている。  
でもコンビニエンスは、今子どもたちが一番足を運ぶ、買い物する場所はコンビニエンスだと思います。  
そういう中で、野放しという言葉は\*\*\*、もちろんそっちは商業ですから、そういうのがないと。  
これも先ほどの規制云々じゃないですけど、例えばこういうところを、コンビニエンスで成人誌を外したところが、例えば市が優良指定店とか、なんとかするような方策はできないものかと。  
これは逆にお店の人たちに成人誌をはずしてくださいという啓蒙じゃないですけど、そういうことができないか、これをお伺いします。

議長／水町こども教育部理事

水町こども教育部理事／おはようございます。

有害図書については、県の青少年育成条例で具体的なタイトルが指定されて、公表されています。

武雄市青少年市民育成会議の巡視活動等でコンビニ、27年度の実績では28店舗ありましたが、コンビニ28店舗の点検活動を実施しております。

具体的には各町の青少年、町民会議の方に町内のコンビニで青少年に配慮した区分陳列がなされてるか、あるいは包装等の陳列方法が適切であるかといったチェックしてもらっています。

これに、協力いただいているお店については、青少年サポート協力店として、県からステッカーを交付して認証をしているといった実態があります。

先ほど議員から御紹介があった、川良のコンビニの店主の方の対応については、非常に感謝すべき、歓迎すべき対応であると思います。

こういうことも、今後の点検チェックの活動の中で、こういうことも御紹介しながら引き続き活動を通じて対策等の強化を図っていきたいと思いますが、陳列撤去という強制力のある指導はできないために、先ほど御提案等あった市独自の認定ステッカーそこら辺も今後検討していきたいと思っています。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／今、チェックしてまわっていると。

チェックはするんですね。

例えば酒屋なんですけども、酒屋もチェックされます。

お酒とジュースきちんと分けているかと。

コンビニエンスさんもそうですね。

区分陳列というのは、ここにこれくらい成人誌コーナーですよと区分されてるだけ。

いかに目につけないようにするかというのがメインなんですね。

子どもがいつも通るんですよ。

刺激的なタイトルで、大人が商売なので、そういうタイトルもすごい出してなければ手を伸ばさないですから。

今、法律で、成人誌を置いているのは、立ち読みできないようにしなさいとなってるんで、立ち読みできません。

立ち読みできないかわりに、タイトルがすごくなるんですよ。

刺激的なタイトル。

立ち読みされない代わりに刺激的なタイトルつけないと、それを買ってくれないから。  
だからそれをいかに、こういうふう撤去する、撤去していただけるお店を、ふやしていくか。

これも住みたい武雄市の中の、僕は大きなポイントだと思います。

ぜひこういうことも聞きながら、撤去のお願いじゃないですが、何らか自主的撤去にいけるような方策を見つけていければと思います。

ぜひよろしく願いいたします。

では、住みたいの3番目。

去年の1月26日、武雄市\*\*\*文化財の日、雪が降りました。

そういう中であらゆるところが、これ僕ですがここまでつもっているんですね。

田舎の山のほうは。

そういう中で、余りにも多く雪が降りすぎて、なかなか周辺部の道路までとか、主要道路だけで、家から出れないところが多い。

これは、エンカリ(?)ですが、2日間雪にうもって、こっちまでとても業者さんとか手が回らない。

これは一応県に連絡して自分たちでまいていいですかということで、自分たちでまくために雪を掘り起こして、これをとってやりました。

雪がふるのどという、あらかじめおいてあったやつです。

業者さんがしようと、でもこれないんですよ忙しすぎて。

あれだけふったら。

ことしもいつふるかわからない。

あのとき、物すごく渋滞しました。

ぜひこういうのを、たとえば、消防団の各小屋に何袋か、各町の自治公民館に何袋かおいて、これはもしこうやっておいてこれないときにはふっていいということをおあらかじめできないものか。

去年みたいな大雪が、本当に降る可能性があるんで、あのときは本当にまひしました。

家から出られない。

地区の細道がとおれない、そういうのは業者さん、とても手が回らない。

国道498でさえ、2、3日目でやっきたぐらいなので、この辺の配慮をおあらかじめできないものかを、お伺いします。

議長／古川まちづくり部長

古川まちづくり部長／おはようございます。

現在も市道の急勾配の部分については地元の皆様に融雪剤の散布について御協力をいただいているところでございます。

また消防団の方の御協力がえられるということであれば、配布を行います。  
よろしくをお願いします。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／やっぱこういうところがうれしいですね。

はよ行えます。

消防団ができるかどうか、地区の人がやるという形で、あらかじめ置いていただく。

急勾配のところだけじゃない、そういうふうな答弁、気持ちよかったです。

ありがとうございます。

ぜひこういうことで、いつこういうのが来るかわからない。

坂道だけじゃなく、この前、平地でものすごい損害が出た。

だから、やっていただきたいと思います。

やるって言うていただけたので、本当にありがとうございます。

では次、ドローンです。

ドローンはこうやって上から撮るやつですね。

ぜひ、市役所に1台、今度杵藤消防本部に1台置いていただければ、これは水害のときとか何とか、どこまでいけるか、人間がやらなくてもいい、ここはずっとあるが、水害があつてここらへんはもういけないですね。

でも向こうは孤立した家まで見にいける。

携帯がつうじないときが多い。

だから、これをぜひ置いていただきたいが、いかがでしょうか。

そんなに高いものではないです。

市役所に1台、もしくは広域圏に1台。

議長／北川総務部長

北川総務部長／おっしゃるとおり、このドローンについては皆さん御存じのように災害等に有用であるということで、熊本県の地震の時も、このおかげでいろんな発見があり、救助につながったということもございました。

ただ、このピンからキリまであります。

10万から250万円以上するものもありますが、ただ、航空法の制限とか、あるいは操作の修練とかいうのに、やはり時間等がかかります。

これについては単独で市でもつもの、ひとつ検討は必要かとは思いますが、杵藤広域のほうで今度、消防本部、おっしゃるように新設をしますので、広域的な形で保有できないかと言うことで、本部とも協議したいと考えております。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／ぜひ、そうやって配置していただければ、今後、山火事なんてめっちゃくちゃ役に立つらしいですね、情報収集になって。

以前、若木八幡岳で山火事がありました。

そのときに団員の人たちが山を、どのへんまでと迂回して、その様子\*\*\*をしようということで、トランシーバーもって、上のほうにいったら、風向きがかわって、実はそっこのほうまで火がきていたと、見えなかったけど。

ごろんごろん転がり落ちて、逃げてきたと。

でもこういうのがあればいいと大丈夫だったと思いますし、水害でも使えると思います。

ぜひ、お願いします。

議長／小松市長

小松市長／ことし8月に佐賀県が民間の会社とドローンにかんする災害協定を結んだというふうに記憶しております。

この分野もぜひ、費用面等々もあると思いますので、企業と連携してできないかと、私が言うのもなんですけど、杵藤広域圏の消防本部にしっかりとそこはやることを前提で働き掛けていきたいと思います。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／ありがとうございます。

あと、安心安全課にぜひ1台、よろしくをお願いします。

では、最後の行革です。

これは、提言のほうで入れますということで伝えております。

ぜひ吉川議員、そして山口昌宏議員さんもいろんな行革のことをいいました。

IT活用の業務化、業務の縮小化(?)、そしてアウトソーシングで資産の活用、ぜひこれを行革の中で大きく力を入れていただきたいと思います。

特に、資金の運用は、先日まで料金値上げが出ましたけれども、資金の運用で、これは前回紹介したのですが、武雄市は130億の減額(?)があつて、1500万の資金運用益。

大分県、国東市は110億で2億の運用益。

やっぱりこういうのをして、何というか、資産のやつをやっていたきたいが、ぜひこの辺のところを、今言ったこの1、2、3を力を入れていっていただきたいと思いますし、これは先日、朝長議員さんがいっていたところのファンドです。

ファンドでお金を集める、そして資産を利用してお金を集める。

そういう中で交付税の減をなんとか埋める。

あとは1番はさっき言った、集約化による職員さんの定数をさげていけますから、そういうなかで\*\*\*人件費がかかるということもできると思います。

ぜひやっていただきたいと思いますので、これを最後の質問に、市長にお伺いします。

議長／小松市長

小松市長／いかにかせぐ自治体にするかいうところは、私も非常に大事と思います。

今ある資金、これをしっかりと運用していく。

そのために、組織の中でのノウハウの蓄積、そしてしっかりできる職員、これもおいて、進めてまいります。

議長／20番 牟田議員

牟田議員／1964年のヒット曲は坂本九の明日がある。

頑張ってください。

名言は、バレーで金メダルをとった東洋の魔女の監督の、\*\*\*五輪について、市長もリーダーシップをもって頑張ってやっていただければと思います。

1964年となんとなく似ている気がします。

ぜひそうやって市長も頑張って行革、いろんな部分でしていただけたらと思います。

以上で、質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／以上で、20番 牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩いたします。

\* 休憩中 \*

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番 豊村議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

1番 豊村議員

豊村議員／皆さん、おはようございます。

議長より登壇の許可をいただきましたので、1番 豊村貴司、今回私自身10回目となる一般質問を始めます。

今回は大きく、4つの項目について質問します。

時間も限られているので、最初の項目に入ります。

まず、まちづくりについて、観光地として武雄がありますが、ことしは武雄に限らずではありませんが、九州全体でもそうであったように、地震などの影響による観光への影響も見られ、私が住む地域でも一時期はオルレの体験をされている外国人観光客の方の姿も少なくなっただけという時期もありました。

ただ最近では、そのオルレ体験の方も再び見られるようになったと思います。

そこで最初の質問です。

現状武雄市において、観光客数の状況はどのようにあるでしょうか。

外国人観光客また先ほどいった、オルレ体験者数についてもあわせて答弁をお願いします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／お答えいたします。

\*\*\*に一時期、地震の影響で、観光客が減少しましたが、市長の英断により、クーポンも発行いただいた効果もあり、現在宿泊施設にヒアリングしたところ回復傾向にあるということでございます。

さらにインバウンドに伴う外国人ですが、御承知のとおり、特に韓国人の方については、26年度から27年度にかけて倍増していますし、ことし4月から9月の九州オルレの武雄コースをご利用いただいたお客様については2532人と把握しているところでございます。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／九州オルレで武雄コースが2532人、やはり韓国の方が倍増しているということで、そこが回復傾向にあるということは、今後ますますそこが増えるように取り組みをしないといけません、傾向としてはいい傾向かなと思います。

そこでオルレのことについて入ります。

九州においてはオルレコースが17コースありまして、武雄コースはすごく人気があると伺っています。

私が住んでる永島地区も、白岩から\*\*\*を通過して、永島の住宅街を通過して、保養村を経て、また永島を通過するというところで、そういうところがあるんですが、永島の方と話をするとですね、結構、永島の、貴明寺、スライドで出したところは、貴明寺の入口のところですが、この辺で迷われている、どっちにいけばいいかなというところがあると。

私自身も何度となく、この方ももしかしたら迷ってるかなと様子を見ると、やっぱり行ったり来たりされている感じがあって、道案内をしたことも何度かあります。

ここ以外にも、白岩体育館のところ、裏のほうから上がってくるところがありますが、そこでグランドゴルフをされていて、この間も永島の方と話をしたら、結構グランドゴルフをしているときに来られて、貴明寺、貴明寺という形で聞かれることがたびたびあるということでした。

この方は貴明寺にいきたいんだなということで、もちろん案内をされてるらしいですが、オルレのコースを十分把握してなかったのかもしれないですが、川沿いにいって、こっちですよと、案内されたりもあったみたいです。

いくつか、こういった形で、迷われてる場所、ポイントもあるんじゃないかと思います。温泉通りのまちなか、がばいの方にもお話を伺ったときに、韓国の方、貴明寺がわからなくて行けなかったという方がときどきいるということも伺っています。

九州オルレの中でも人気がありますし、貴明寺もそうですが、日本の文化をあらわすところもあるので、やはり味わっていただきたい、体験していただきたいところもあります。

繰り返し迷われるポイントは、やはり掲示のあり方を見直すところは必要かと思います。

この画像でいうと、ここに、フェンスの向こう側に、こっちですよというのがあるって、カーブの先から住宅街の中に入りますが、ここ、やはりわかられないのがあるようです。

そういうところで、掲示のあり方について、一度やはり確認と見直しをしていただきたいという分と、それとあわせて、地域の中を通っていくので、地元の、そこに住む方たちもやはり、あ、この方たちはオルレの方だなと気にする部分もあるし、先ほどいったグランドゴルフの側をとおったりもされるので、ある意味人との出会い、地域の人たち、地元の人たちがこっちですよ案内することも、おもてなしにつながると思います。

ただ、コースが十分理解が周知できてるかという部分もあるので、その地元の力、おもてなしという部分で高める意味でも、地域の方とか、オルレコースに関与するような人たちには、オルレについての説明をしたりとか、そういう理解を求めるような説明とか、そういうこともしていいんじゃないかと思います。

掲示とおもてなしという点で必要と思いますが、その点について答弁お願いします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／2点ですので、お答えします。

まず、表示のほうですが、御指摘の点について、私も現場にいきまして確認しました。

まず\*\*\*、画像をお願いいたします。

御指摘の点でございますが、赤丸してるところが、先ほど議員が御紹介いただいた地点です。

その赤丸のところからすぐに向かい側のところに、今現在は、オルレの表示がされています。

これでは安全性も含め迷われる可能性があるということで、今後は赤丸から一旦左に進んでいただいて、安全性を確認した上で、それから渡っていただくという表示に変更させていただきます。

これをはじめ、いろんな表示の仕方は常に点検してるところですが、いろいろ御意見があれば、私どものほうに頂戴できればと思います。

2点目ですが、おっしゃっていただいたように、以前、韓国の領事館と一緒に、領事と一緒に武雄コースを歩いたことがあります。そのときの感想としても、武雄の地元の方がどれだけ歩くかが課題ですねとお話いただきました。

したがって先ほどお話をいただいたように、地元の方が御挨拶をいただいたり、それから御案内をいただくとか、そんなおもてなしが非常にありがたいと思っておりますので、今後はぜひ少しでもオルレコースを御理解いただくように、コースの\*\*\*や、簡単な韓国語の御挨拶程度の韓国語を御紹介する等ですね、積極的に地域のほうに入って行って説明会等を行いたいと考えます。

議長／小松市長

小松市長／まず、オルレのボランティアガイドの皆さん、地域の皆さんに対しては、まずもって感謝を申し上げます。

オルレというのは、家に帰る細い道という、チェジュの方言だったと思います。

そういう意味でも、かざらないおもてなしが大事だと思っています。

挨拶、声かけ、道案内、ぜひこのテレビを見ていただいている皆様にも、一言でもいいので、あと笑顔だけでもいいので、まずお願いしたいと考えております。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／地元の方にも説明をしていくということで、その辺をぜひともお願いいたします。

この間私も地域の介護予防教室で、年配の方を対象に英会話を10分(?)ぐらいしたんですが、すごくなる(?)、これいいねといわれて、今度韓国語でもやってよと言われていました。

先ほど、韓国語の挨拶と言っていましたが、スライド戻します。

ケーブルテレビで武雄市役所便りの、おもてなしイングリッシュとあっていますが、おもてなしハンデルもあっていいのかと、これは提案です。

地域のほうも見直していただくということもあるので、その辺、ぜひよろしく願いいたします。

部長のほうから、先ほど安全面についてお話がありました。

これはこの貴明寺のところの入口、道がこういうふうには蛇行しているところです。すごく、こういうふうには渡ってこられるのですが、やはり視界が悪いところです。オルレの場合、団体でもとおる場合があるので、団体でずらっと連なっていかれたときに、ちょっと大丈夫かという心配もあります。もちろん地域でも、この辺の安全面についての不安視する声もあるし、こちら側から、こちらという言い方はあれですが、国交省の官舎のほうから出るときも、出入りがしにくい、危ない面もあります。さきほどのオルレの部分でも言いましたが、ここも交通の分の安全対策も考えるところだと思います。みていただいてわかるように、中央線は、ほぼ消えています、この一角は。カーブなので、カーブに沿ってゆっくり行くだらうということもあると思うんですが、私も毎朝のように歩いて通っていますが、結構車のスピードも出してるような感じもありますし、中央線が消えてなくなるぐらい、はみだして通っている現状も実際にあります。というところで、その安全面への対策が必要だと思いますが、この点について答弁をお願いします。

議長／古川まちづくり部長

古川まちづくり部長／路面の標示による\*\*\*の減速対策やカーブミラー等の設置、ライン等の更新等で、安全対策を講じていきます。

議長／北川総務部長

北川総務部長／これにつきまして、おっしゃるとおり、私も通りまして、どきっとするときに随分あります。そういうことで地元のほうでも通学路にもなっているので、子どもたちの安全も含めて、地元住民の安全と、またオルレのお客さまに対する安全対策を講じるべきだと思います。それで、横断歩道等の設置についても考えられるので、地元の関係者、あるいは学校関係者、それから観光課、警察署との協議をして、横断歩道がいいのか、注意喚起の看板等がいいのかということで、さまざまな安全対策について協議したいと考えています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／実際に、体験されているというところもあって、対策に動いていただくということで、ぜひともよろしくをお願いします。あわせてではあります、このカーブ、すごく蛇行しているのと、ここに看板がありま

すが、冠水時走行注意という看板があるように、大雨が降るとすぐに水につかる場所で

す。

こういうふうには歩道と高さがかわらない。

これでもひいているところでは

完全にここ一帯が水に浸かって、通行止めになるところで、以前は車が入って行って動けなくなったということもあったんですが、\*\*\*、カーブなので多少の傾斜はあると思うんですが、結構傾斜がきついのかなというところもあります。

それによって、ここと、その手前のほうですが、この警察官舎の前、ここもすぐ浸かります。

車がとおれない形になるので、ここの根本の水の流れも見直すことも必要と思いますが、ここの\*\*\*についてもちょっと対策が必要だと思いましたが、これについてはいかがでしょうか。

答弁をお願いします。

議長／古川まちづくり部長

古川まちづくり部長／議員御指摘のことについては、我々も度々冠水しているということ把握していますので、実際現地の調査、排水経路の調査と、及び道路の縦断の見直しによる冠水対策ができないか、まずは検証したいと思えます。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／部長言われたように、まず調査、確認をしてからというところが入口と思えますので、まずその入口から取り組んでいただきたいと思えます。

それでは次にいきます。

スター戦略の部分です。

画像は、武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略、もっと輝くスター戦略の基本目標4、来てもらう・住んでもらうまちをつくるです。

その中の具体的施策（1）国内海外誘客の中の具体的事業の中に、外国人観光受入環境整備事業、Wi-Fi整備、サイン（？）他言語化等が書いてあります。

オルレにおいても観光においてもそうですが、今は、やはり写真をとってSNSで投稿したりとか、知り合いが投稿している画像、情報、知り合いの情報によるくちこみという部分が誘客につながるのも、十分つながってくるというところもあると思えます。

スター戦略にもこういう形であがっているのですが、この点について、現在整備事業についてはどのような状況にあるのでしょうか。

答弁をお願いいたします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／スター戦略においての特に観光客受入環境整備事業でございますが、それにつきましては、御承知のとおりでございますが、県の補助金、市の補助金も利用いただきまして、Wi-Fi 整備が進んでいるところでございます。

ちなみに 25 年度から現在までにつきましては、宿泊施設、それから飲食店も含めると、合計で 30 店舗、30 カ所の Wi-Fi 事業が進んでいるということでございまして、こういう形で、観光客の受入整備をしていきたいと思っています。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／オルレについては、観光ガイドさん、オルレ以外もでしょうけど、いらっしゃると思いますので、ガイドをしているときにこられた方が、こういったスポットでよく写真撮っているかとか、そういったのもリサーチしていただいて、そういったのも整備の検討にさせていただくということもあるかなと思いますので、その辺の情報収集もお願いいたします。

それでは、次の項目に入ります。

就労支援についてです。

これは、11 月 23 日に佐賀大学のほうでありました佐賀のみらいをつくる地方創生と人材育成シンポジウムがあつて、私もいってきました。

佐賀大学が、自治体などの地域社会と連携して地域の課題解決や、地域振興策への取り組みを行う市の拠点事業、\*\*\*地域業ということをされております。

また、COC プラス事業としてインターンシップなどを含めて、地元の就職率向上のための教育や、学部の強みをいかした研究、雇用拡大や創出のための取り組みを、県内武雄市含め、全 10 市\*\*\*と連携して行われております。

武雄市では、さきほどのスター戦略の中にも 1 の基本的考え方の、2、基本的視点の中で、本市の特徴は高校卒業後の転出数の 3 分の 1 程度しか大学卒業後に本市に戻ってきていないところにあるというところで、なかなか戻ってくるのが課題であると、あげられています。

これもスター戦略の中で、基本目標 1 の仕事を創出し、所得を上げるの中にあります、具体的支援策 3、就労支援の中に、先ほどいきました佐賀大学であったように市の拠点大学にある、地元創生推進事業、COC プラスがあがっています。

ほかの他市の事例等も拝見しました。

まちの産物等をいかに PR して高めていくかとかですね、いろんな取り組みが自治体と連携して行われていたりします。

その前に言いましたように、地元就職率の向上のための教育改革ということで、地方に目を向けてもらえるような事業を、佐賀大学さんが、地域保護等取り組まれています。ということで、ここにも上がっていますが、武雄市として、大学との連携、COC プラス事業について現状及び今後の市はどのようにあるでしょうか、答弁をお願いします。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／議員御指摘の、市の拠点大学によります地方創生推進事業これについてはCOC プラスという略称で呼ばれています。

これについては具体的には佐賀地方創生人材育成活用プロジェクトとして事業が佐賀大学を中心に進められています。

お話されたように、県内の20市町が参加していますが、これについては本年平成28年度2月20日に活用推進協議会が設立されています。

これについては私のほうも出席させていただいております。

27年度の国の事業、文科省の事業として進められていると承知しています。

その後今年度28年度、7月には総会が行われている状況です。

この事業については平成32年3月31日までの5カ年の事業として取り組まれているという状況です。

武雄市のほうも、佐賀大学と地方創生にかかる連携協定を本年3月に結ばさせていただいています。

現時点ではまだ1年目ということもございまして、具体的なテーマをかかげた授業は行ってはいませんが、現時点ではこの協議会に参加し、さまざまな構成団体からの御意見などをお伺いしながら情報収集を進めるという状況です。

今後この雇用創出にかかるさまざまな課題が当然ありますので、その中でこのスキームを使って活用できる研究、あるいは事業がございましたら、それにつきましては検討を進めてまいりたいと考えています。

議長／小松市長

小松市長／先日ある方から、オギョウカンだったか、大学生がかかわって、これまでにないものが生まれたというお話を聞きました。

やはり大学生がこういうまちづくりにかかわるのは、私は非常に市にとってもいいことと思います。

新しい新鮮なアイデアをもらえることもあるし、継続的にかかわってもらうことで市も活気づくと。

さらにはそれがきっかけで、武雄で働こう、起業しようというそういう話につながるので

はないかと思えます。

今後、具体的な検討という話ありましたが、地方創生の武雄市の懇談会、そちらに、このさっきやった佐賀大学のイガラシ教授さんも入っていただいておりますので、具体的に話をイガラシ先生として、何ができるのかということで、動いていきたいと考えております。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／佐賀大学とも連携協定も結ばれているということで、今後の情報を見ながらということと、市長も言われたように、やはり組んですることによって、大学生が訪れて、また武雄で体験\*\*\*そういったことも今後の武雄の活気とか雇用にもつながると、私も思っています。

武雄市が考える課題と、この事業が一致すると思えますので、ぜひ、前向きな形で進んでいっていただけたらと思えます。

それでは次の項目、健康づくりについてです。

健康づくりについて、武雄市も、市長のもと健康寿命延伸という形で、柱を持って取り組ませていただいています。

武雄市の財政としても大きくは国民健康保険のことも関係します。

保険者数の減少もあり、運営的にも厳しい状況もあるということで、今後の運営についても気になります。

その中で、この項目にある健康づくりと考えたときに、国民健康保険の分を見たときにも、一人当たりの医療費の増加もあったと思えます。

ということで、まず、国民健康保険の状況についてどのようにあるか、答弁をお願いいたします。

議長／大宅くらし部長

大宅くらし部長／モニターのほうごらんいただきたいと思えます。

武雄市国民健康保険の加入者数と、一人当たりの医療費の推移をグラフ化したものがあります。

平成23年度から、27年度の4年間の推移をしめしています。

下の棒グラフですが、加入者数の推移です。

平成23年度は1万3484人でしたが、平成27年度については、1万2144人と約1割1342人の減少となっています。

上のほうの折れ線グラフです。

加入者1人当たりの、医療費の推移を示しています。

年々右肩上がりの増加をしていて、この4年間で、約5万5000円で14%の増加になっております。

この円グラフについては、国保加入者の年齢階層別の割合を示しております。

ごらんいただくように、60歳以上の方が、全体の約半数以上の54%を示しておりまして、高齢者の方が、多いという状況です。

加入者数については、年々減少しておりまして、加入者に高齢者を多く抱えてるという国保特有の構造的な問題から、保険税の収入については見込めず医療費の増加にみあう財源の確保が難しい状況が続いています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／医療費の増加に見合う財源の確保は厳しいというところがありました。

そうなったときにやはり、なかなか難しい面もあると思いますが、健康づくりというところ、一人一人がそこを認識していくのが、もちろん私も洋服に合うような体形にしないといけないというのがありますが、一人一人がやはりしっかり認識していくことが大事だと思います。

その周知ももちろんしないといけません、今朝8時過ぎに市役所きたとき、2階にあがったときに左が健康課さんですかね、武雄\*\*\*体操を朝礼前ですかね、されてました。

すごうれしかったですし、すごくいいなと思いました。

そういうふうに日々体を動かすことが、やはりいいと思います。

画像に出したのは、フレイルというところで、現在、日本老年医学会によって推奨される言葉です。

いわば体が高齢とともに段々弱くなり、筋力低下、活動性も低下、身体的な部分だけじゃなくて、認知機能の低下、精神活動の低下、そういったことが健康状態を落としていく、いわゆる、日本語でいう虚弱という状況、それえをフレイルという形でいわれていて、この状態になると要介護状態につながっていきますよと。

そのために、このフレイルについての早期発見、対処が必要だといわれています。

評価で上がっています、体重が減ってないかとか、筋力が減っていないかとか、疲労感とか、こういうことが評価方法でありますし、ほかにも、介護予防事業、基本チェックリストを評価に活用したいということもあがっています。

今まで私も、ロコモという部分で話してきた、運動筋肉、骨関節、そこが弱くなってくると、支えが必要になってきますよということで、ロコモ予防ということ、佐賀県も一生懸命していますが、いつてきました。

ある意味、このロコモもフレイルの中に入ると思います。

国のほう、厚労省でも、高齢者の虚弱、フレイルに対する総合対策、これが必要だと、29

年度の予算概算要求の概要から引用して、この中でも、健康で豊かな老後を送れる健康寿命の延伸に向けた取り組みということで、フレイル対策があがっています。

国のほうもこういったところが取り組みで必要だといっているが、まず、国の動きについて、どのように情報があるのでしょうか、その点について答弁をお願いします。

議長／大宅くらし部長

大宅くらし部長／国の平成 29 年度の予算の概算要求の段階ですが、安心につながる、社会保障の\*\*\*の中で、健康寿命の延伸に向けた取り組みの1つとして、今、議員ございました、フレイル対策があがっています。

国からの詳細な対策については、まだ、示されていません。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／まだ、詳細が示されていないということで、詳細がでてきたら、それを見ながら、市としても動けるところは動きながらということろで。

実際、健康課さんとも話して、今もいろんな保険適用とか、さきほどのフレイルの部分の、例えば、予防としてタンパク質、栄養が大事とか、感染予防につとめましょうとか、薬の量が多い人は、主治医と相談しようとか予防で上がっているが、いろんな場面でそういう話はしているということで話はありました。

私も以前その病院、施設で、リハビリ職員として働いていたときに感じていたのは、高齢の方は、あまりやせているよりも、少しなんというか、体重が減少しないほうが体力もありやすいのではということも感じた。

もちろんそれがすべてではないですが、その中で、こういうことを周知していくことが必要かと思います。

先ほど言いましたように、いろんな場面で話をしているということがありますが、ひとくくりにフレイルと言う形で、内容をまとめて話したほうが、受ける側もいろんなことがそれぞれの場面で話し合うよりも理解しやすい、わかりやすい、伝わりやすいと思います。

ということで、国の動きは今後見ますが、武雄市としても、積極的にフレイル予防として動いていいのではと思いますが、この点についていかがでしょうか。

答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／私も不勉強で、フレイルという言葉を知らなくて、今回こういうことかと認識しました。

簡単にいうと、健康な状態と要介護状態の間と、ざっくりいうとそういうことと思います。食事とか運動、運動であれば、身近な健康教室、健康ポイントを活用したウォーキング、そういったことを進めていくことだと思います。

健康教室については、脳、音楽、百歳体操、去年と比べて場所も3倍にことはふえています。

まずは身近でできることを、数を来年度からもさらにふやしていくことかなと思っています。

加えて、やはり家から出ると。

家にいると、心も体も、弱りがちになってくると思います。

身近でいけるところをふやすという意味で、サロン、今も市内で、ふえてきていますが、そこをさらにふやすということに取り組んでいきたいと思っています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／そういった事業を進めながら、さきほど言いましたように、例えば、運動の教室も、こういう形で栄養も大事だということで、そういった理解しやすいような周知の仕方も取り組みとしてあるんじゃないかというふうに思いますので、そういった形で周知することによって、先ほど言いましたように、医療費の増加の抑制につながればと思います。今後も保健活動の際には、この辺、御検討いただければというふうに思います。

それでは、最後の項目ですが情報発信についてです。

ことしの4月より、武雄の魅力や強みをそこにむけて効果的に発信し全国の関心を集め、そして全国からより多くの方に移り住んでもらうため、そしてシティプロモーションを設置されました。

私もすごくシティプロモーション室、期待しています。

情報発信はとても大事だと思いますし、同じように市民の方からもどんどん積極的な\*\*をという声もよく伺います。

そこで、シティプロモーション室も、4月の設置から半年以上がたちましたが、現在の取り組み状況及び今後についてどのようにあるか答弁をお願いします。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／シティプロモーション室の大きな目指すところにつきましては、市外の方に武雄市に移り住んでいただく移住、それから市民の方々の流出を防ぐため、定住、この2つを大きな目指す目標にしています。

そのためにはということで、3つの柱で現在事業を進めています。

1つは情報発信力の強化、議員御指摘の項目です。

そしてメディアの活用。

これは、情報発信力の強化とも関わる。

武雄ブランドの構築、この3つの柱をかかげています。

具体的にはこの間、市民の方からの御意見、高校生からの御意見等をいただきました。

われわれはつい、デジタルのほうに走りますが、アナログでの情報発信も必要だという高校生からの提言等もありました。

こういうことも受けまして、民間との連携ということで、ポスターの掲示、これは\*\*\*さんのほうでも、掲示の場所を設けていただきこちらのほう、それから高校生からの提案等も受けまして、武雄高校校内でのポスターの掲示、こういったものも取り組んでますし、市民の皆さんからの、告知の展開、加勢されたい(?)ということで手を上げていただき、御協力をいただいて、進めています。

市のほうでは、皆さんの御存じのとおり、武雄ムービー大賞というのを取り組ませていただいています。

現在、第2回の募集を行っているところであります。

これについては、第1回、35作品が寄せられたところで、市民の皆さん、あるいは市外からの応募もいただき、我々も大変うれしく思っています。

これを活用しなければと思います。

これらの方策を一つ一つ進めていくのが重要であると思っております。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／情報発信の強化、メディアの活用、武雄ブランドの構築で、その中でももちろん、デジタルだけでなく、アナログも必要だということ。

武雄ムービー大賞、私も第1回応募しましたが入選はしませんでした。

第2回は考え中です。

その中で、今、先ほどいった、武雄ブランドの構築ということがありました。

これもスター戦略ですが、基本目標1の中の、基本的方向の中に農産品、特産品のブランディングということがあります。

やはりブランド化はすごく大事だと思いますし、そこを切り口にした武雄の広い魅力発信というところもあると思います。

まず、この部分のスター戦略のブランディングについて、現状どのようにあるか、答弁お願いします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／お答えします。

私どもも、ブランド化については非常に重要と考えております。

農産品のブランド化につながる現在の動きとして、いくつかご紹介しますが、まず御承知のように、6年間連続特A(?)をしているさがびよりですが、昨年は都内の百貨店で市長自らトップセールを行っていただきました。

それから、6月18日には、県知事と武雄市長と一緒に田植えをしていただくというような取り組みも行っています。

それから、先ごろの、12月1日の田んぼのオーナー制度を利用してシンガポールからの旅行者に御説明したという状況です。

続いて、25年度から生産者の皆さん方と販路開拓を行っているパクチーですが、パクチーについては特にパクチー専門店のほうから取引が始まっております、好評いただいています。

特に武雄産パクチーは本場のタイとかかわらず香りも品質がいいという形で評判いただいてこれが寄与いたしまして、10月には大分でも優秀な食品会社により武雄産パクチーを使ったパクチーペッパーが発売されてるところでございます。

それから、しょうがについてですけど、武雄市商工会青年部が昨年度から、山内産のしょうがを使い、ジンジャエールの商品開発に努めています。

現在、いろんな研究施設や市場開拓に向けて研究してるところで、私どもその支援をしています。

そのほかに素材探しも行っております、里山\*\*\*あたりを中心に、積極的にいろんな\*\*\*を含めているいろんな作物を研究してる状況です。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／今、話がありました。

私も今、ここあがってるように、ワカキポークという部分もブランド化という部分は、私もあるべきところかと思いますが、そういうふうに取り組んでいって、魅力を高めて、これをいかに発信するかが大事だと思います。

個別の分もあります。

シティプロモーションとして考えたときに、やはり最初、冒頭言われたように移り住んでもらう、流出を防ぐ、定住してもらおうということもあって、武雄としての魅力をどう高めるか。

ある意味、いかに武雄をブランド化するところもあると思います。

個別じゃなくてもカテゴリーとして例えば武雄の食としてでもあるでしょうし、広い視点でも武雄の都市として見たときの取り組みもあるかだと思います。

私はこれまでも、武雄は交通のヨウショ(?)でもありますし、県政府拠点地にならないといけないというふうに思いますともいいましたが、こういう形で、シティプロモーション

ンということで、きょうブランド化、広く視点をもって取り組んでいただくことについてはどのようにお考えでしょうか。

答弁をお願いします。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／武雄市には、一つ一つが磨かれたいいものがたくさんあると。

それを武雄市イコールそういった連想していただく。

ひとつのものを買おうとしたときは、武雄産と消費者の方が連想していただく。

これがブランド化の究極だと思っています。

そこが経済の活性化につながると。

そういった意味でブランド化というのは、あらゆる武雄産、武雄にあるもの、観光も含めまして、非常に重要なことだというふうに思っています。

議員御指摘のとおり武雄全体を見たときに、ブランド化の重要性、これを行政のみならず、実際にそれを生産されてる方、あるいは、そういうサービスを提供されている方、民間の皆様のお力、これが不可欠でありまして、そういう民間の方々とともに、このブランド化は進めていく必要があると認識しています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／今の点、ちょっと市長もその点について、どう武雄のブランド、魅力というところを主にあるかということではちょっと答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／先ほども、ブランド化の話ですね、若楠パークというところは、さっき抜けていましたけれども、ここについては議会でも答弁しております。

当然ブランド化をしっかりやっていくと、私から申し上げたいと思います。

今の御質問に対しまして申しますと、ブランドをだれがつくるかという、やっぱり外の人が認識し始めてブランドになると思っています。

そういう意味ではやはり強みを生かして、差別化するということと言えますと、やはり一つは図書館というのがありますし、そこを広げていくと、教育、さらに今度はこども図書館もできますから、子育て、そういうところが1つ武雄は差別化になると考えております。

もう一つは、先ほど議員おっしゃったように、西九州での中で見ると、今後は平成34年に新幹線が開業いたしまして、じゃ武雄は長崎と佐世保の結節点になるわけです。

歴史的に見ても肥前の国と考えると、佐賀と長崎の結節点でもあると、そういう位置にあ

と思っています。

この地理環境を生かして、そして、新幹線が開業するということも生かして、西九州のハブ都市というのが1つブランドとして打ち出せると思います。

そのためには住環境や雇用ですとか、そういうところを上げていかないとだと思っ  
ています。

大きく分けて私はこの2つが、今の武雄のそしてこれからの強みだと考えております。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／ほかの地域になく、武雄にあるものを発掘して、そこをいかに磨き上げていくか、情報発信していくのは大事ですし、今市長が言われた西九州のハブ都市、その言葉はすごく大きいところかなと、私は感じました。

そういうふうな視点を持って、ギギ(?)を持って取り組んでいくことが、またブランド化につながる魅力、\*\*\*につながるんじゃないかなと思います。

ぜひよろしく願いいたします。

それでは次ですが、シティプロモーションで移り住んでもらう、移住というのがありました。

これまでも移住について話をしたときに、なかなか遠いところから住んでらっしゃって、仕事をやめて移り住んでもらうというのは、なかなか若い世代ではハードルも高いところもあります。

そういうときに近隣自治体のほうからですね、仕事はかわらないで、住むところを武雄のほうにとか、そういうところから来るよりも、ハードルはまだ低くあるのかなと思うので、アナログの取り組みということも、言われましたが、そういった点で、例えばホームページもありますが、ホームページでの武雄の紹介もありますが、ホームページはやはり武雄市というのを入力してもらって、その心理的行動が伴ってホームページを見ると思っていますので、そうではなくて、それももちろん大事ですが積極的に近隣自治体に出向いて行って武雄のことを紹介する。

武雄を意識してなかった人でも、武雄のことは何かあってるって自然に見えるような形で行ってはどうかと思えます。

私のもと会社員の同僚でも、佐世保から通ってる人もいたし、ハタミ(?), オオムラ(?)から通ってる人もいました、武雄のほうにですね。

そういったことでなかなか佐賀県で動くのは難しいかもしれませんが、例えば佐世保とか、ハサミとかオオムラとか長崎とか、そういうところに観光という部分だけじゃなくて、これは以前も、言葉として出したことあるんですが、例えば教育とか移住相談ということも踏まえて、武雄の紹介として、どんどん積極的に出向いて行って、PRという手法もあると思いますが、この点について答弁お願いします。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／現在も、さまざまな機会を捉えて教育、あるいは移住含めてこれまでもさせていただいたところであります。

シティプロモーションという新しい組織ができたということで、こういったものもトータルとして、あるいは移住、教育、あるいは観光、あるいは住むことそのものについてもトータルでの提言ができるかと思っています。

近郊について、そういう協働して出店できるチャンネルがあれば、費用の問題等もございませので、単独でとなると、かなり負担もふえるということになると思います。

しかし効果を狙うことになれば、行政のみならず関連する民間の皆様、\*\*\*の皆様、あるいは事業者の皆様、こういった皆様とも連携する必要があると思っています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／そうですね、単独が難しい場合は、連携しながらもあると思います。

やはり、例えばイベントみたいな形で出向いて行って、紹介しながらとなったときに、やはりその現地の人はですね、武雄の人と、こうやって対面してお話することで、デジタルでは感じられない温かさとか、そういった得られる部分があって、またそこが武雄の興味によりつながると思いますので、そういう点は積極的に行っていっていいんじゃないかと思っていますので、今後検討のほうよろしくお願いします。

最後です。

今、イベントという形の話をしました。

武雄市内でもイベント、いろいろあってます。

私もイベント関係者、プロデュース関係の方とも話をするんですが、言われるのはやはり司会者がすごく大事だと。

武雄もすごい司会者がいらっしゃいます。

すごいなといつも感心するところがあるんですが、やはりその関係者も言われていた部分は、やはり司会がどういうふうにあるかという見せ方、見え方が全く違ってくると、言われていました。

武雄市も例えば、県の広報 CM とか、ほかの市のCM、広報に出てらっしゃるタレントさんもいつてらっしゃいます。

そういったタレントさんをですね、せっかく武雄にいたので、活用することも私は必要ではないかと。

それが、武雄のイベントのまた魅力を高めることにもつながると思いますが、この点いかがでしょうか。

答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／ぜひ積極的に活用してまいります。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／ありがとうございます。

という形で、シティプロモーション、すごく私は期待していますし、一つのカテゴリーじゃなくて、いろんなところをまとめながら武雄をより魅力あるものにしていくように動いていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わります。

議長／以上で、1番 豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩いたします。

\* 休憩中 \*

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番 山口 等議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

4番 山口 等議員

山口 等議員／皆さん、こんにちは。

議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問をさせていただきます。

一般質問もいよいよきょうで最後の最後であります。

内容等が重複したところも多々あるようでございますが、私なりに質問をさせていただきます。

今回は大項目で3項目。

1つ目にまちづくりについて、2つ目に道路行政について、3つ目に子育て支援についてお伺いいたします。

では、早速質問に入らせていただきます。

まず初めにまちづくりについてであります。

平成 10 年に市の事業として始まりまして、武雄北部土地区画整理事業が松原交差点付近から小楠の交差点付近までが、ようやく完成形がみえてまいりました。

これは現在工事が進んでおります松原の交差点であります。

これが今年度中にサントウ式の信号機がつくような予定であるそうでございます。

これは西浦の交差点ですね。

佐賀銀行さんがきれいになって、これはほとんど整備が終わったところの写真です。

J R の線路で、南北が分断された市街地の風通しをよくするために高架事業。

これまで市の中心部の活性化を実現するためにいろんな計画立案がされてまいりました。

しかし、道路整備等が進んではいくものの、商店街におかれましては、時代の厳しい流れ、厳しい流れの中にまともに受けたような気もいたします。

区画整理事業がまもなく終わろうとしておりますが、市は駅北口の北部に商店街を含んだところのまちづくりについて、現在どのようなことに取り組んでおられるか、まず伺いいたします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／お答えをいたします。

議員御指摘のとおり、駅の北部の地域でございますが、これについてはこの画面にあげておりますように南は保養村から、それから競輪場、それから図書館、新しくできます市役所、そして中心の駅、新幹線がでますので、それまでの時期にぜひ活性化を図るべきという地域でございます。

これまでの取り組みをご紹介したいと思います。27 年度末期から、\*\*\*から当市を中心としましたまちづくりの実績があります業者に委託をいたしまして、まちなみ創造事業という形で取り組んでおります。

27 年度に取り組みました事業といたしては、まちなかの中町でございますが、そちらのほうの空き家をお借りいたしまして、まちづくりの拠点づくりをいたしております。

それから、武雄市全地域の北部市街地の文化の歴史等の資源調査を行っているところでございまして、この拠点を中心としまして現在も活動をしているという状況でございます。

今年度、27 年度に入りました取り組みでございますが、28 年度につきましては、プロジェクトのロゴを作成いたしまして、それからまちづくりの運営事務局という形で設置をいたしまして、継続的に活動ができるという体制をとっているところでございます。

それからワークショップの開催やクリエイターインレジデンスという形でしておりますが、その御紹介でございますけれども、これがワークショップを、座談会でございますね。

そういった形でワークショップしておりますが、こういう形の\*\*\*でございます。

それからウェブサイトということでホームページを中心に、TAKEO MABOROSHI TERMINAL という形で検索してやりますと、その取り組みが紹介をされているところでござ

ざいます。

こちらの市街地域につきましては、特に武雄のまちにつきましては一定の期間滞在をしていただいたほうがより武雄のよさをわかっていただくということで、クリエイターといいまして、芸術家でありますとか、そういった方々を一定期間武雄に泊まっていたり、その方々が情報発信をしていただいたり、このように地域の方とお話しをしていただいて、その活用でありますとか又は伝統的に\*\*\*しております武雄の、そういった技術ということの組み合わせといたしますか、新しい何か創造ができないかという形で取り組んでいるところでございます。

現在の、28年度の取り組みは以上でございます。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／まちなみ創造事業、武雄のよさを引き出していただいて、今取り組んでまだ1年くらいということで、あと1年ぐらいたればいろんな成果が出てくるのかなということで期待をしております。

これは今回の質問の中の初日でしたかね、2番議員さんの方からもお尋ねが出たんですけど、これは武雄温泉駅北口のちょうど出たところの横断歩道の前の写真です。

やっぱり武雄といえば温泉というイメージが、やっぱりあると思うんですね。

それでやっぱりここに、イメージアップ又はインパクトのある、そういうパネル等をぜひ掲げられないかなということをお自身も、再度お願いしたいと思います。

前回の答えが、何か、構造物といたしますか、そういう看板にもいろんな規制があって、できないというようなことは言われておりましたけれども、そのエリアをちょっとこう、外したところにも、ぜひそういった武雄のシンボルである温泉等をイメージした看板等の設置を、できれば駅のホームからでも見れるような位置に設置できないかどうか、再度市長、どうでしょうか。

お答えをお願いします。

議長／小松市長

小松市長／ここの看板設置については規制があると話はありましたけれども、要はあれですよね、ここに武雄温泉があるというところをどういう方法で知ってもらおうかというところだと思います。

そういう観点で看板がいいのか、ほかのことがいいのか、ちょっとそこはぜひ考えさせていただきたいんですけども、少なくとも新幹線も今後来ますので、しっかりと見てわかるような仕組み、これを考えていきたいと思います。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／ありがとうございます。

ようこそ武雄へ。

また、温泉のまち武雄へようこそ。

焼き物の\*\*\*を楽しんでください。

この花壇といいますか、植栽の\*\*\*の花植えは、武雄小学校の5年生が、もう4年間続け活動をしてきております。

子どもたちも子どもたちなりにまちづくりに取り組んでおるんですけども、武雄市は29年度の末には新庁舎もできます。

また、図書館、こども図書館も来年10月にはオープン予定でございます。

そして競輪場も新しくリニューアルされました。

また、保養村もあります。

こういった\*\*\*の中で新しい武雄市のまちづくりを、市長自身どのように考えておられるのか、まず御答弁ください。

議長／小松市長

小松市長／一言で言うと歩いて楽しいまちにしたいと、回遊性を高めたいというところがあります。

そういう意味で、この点を線に、面に広げていくと、ここを今後考えていきたいと、そのように思っています。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／この子どもたちが今11歳。

あと10年、15年すれば、恐らく武雄の地でいろいろ頑張ってくれる人も方もおると思います。

またお盆とか正月に帰省する人もおるでしょう。

こういった方たちが夢を持てるような武雄市に、ぜひしてほしいと思います。

よろしくお願いします。

それで、これはちょっと早いような気がしますけれども、西浦の交差点に掲げてあります、武雄温泉春まつりの看板です。

これ来年の4月に開催されますけれども、その武雄町内のまちづくり協議会の方がいち早く、やっぱり市民の方、いろんな方にお知らせしようということで掲げておられます。

こういったことでまちの賑わいを早くにお知らせして、そういう多くの方に歓迎していた

だくような行事も取り組んでおられます。

この関係なんですけれども、これはちょっと前回の13番議員さんですけど、ちょっとかぶってしまいましたけれど、共同まちづくり地域交付金についてお伺いいたします。

この交付金は、1期、2期がトータル1億4000万ぐらいの金額を使っていただきまして、いろんな各町がうるおいある地域活動をやっておられます。

それで今年度、28年度でとりあえずは2期目の分の交付金が終わるということで、先日も御質問ありましたけれども、市長の答弁として、このまちづくり交付金と、がんばる地域応援補助金、これをタイアップして、同等ぐらいの金額を交付していきたいというふうなお言葉をいただきました。

もう来年度計画もそろそろ必要であります。

ぜひ市長、同等ぐらいのじゃなくて、はっきり言って、もう同額の交付金をお願いしたいと思うんですけれども、市長、どうでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／地域の皆さんの自主的な活動、まちづくりの活動を支援するというところについては引き続き、私も大いにやっていきたいと考えております。

そういう意味で、地域交付金、今はあわせてがんばる補助金とありますので、そこについては主旨が重なってくると思いますので、それで地域の皆さんの自主性を支援するという意味で、交付金、補助金を合わせて、そこは同程度、繰り返しになりますけれども同程度、3年間は考えたいと、そのように思っております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／ありがとうございます。

武雄のまつりという推進協議会では、こういった武雄を多く賄う、先日行いました武雄中学校で、中学校2年生と一般の方が会話をを行うトークフォークダンス、それ非常に好評でした。

子どもたちというか、生徒が約200人ぐらいおるが、120、130人の一般の方が来られて、本当に中学生の活動ですが、なかなか我々も面と向かって\*\*\*は、ほとんどないんですね。

しかし、本当にいろんな意味で、いい会話が、いい話ができたとということで、皆さん関心を持っておられました。

そういったことを私もぜひ続けたいと思いますので、同等の300万ですかね、次、同等金額の交付をよろしくお伺いいたします。

次に、みんなのバス、これも初日、川原議員さんでしたかね、ちょっと質問がありました。

これも平成 22 年の 9 月から試験運行して、もう 6 年になります。  
北方、山内、若木が現在運行中ですが、あらためて現在の利用状況をお尋ねいたします。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／スライドのほうをお願いします。  
みんなのバスの利用状況でございます。  
平成 25 年度、26 年度、27 年度について、グラフをお示ししています。  
27 年度につきましては、1 社あたりというふうに、それから利用者の数は 8755 人の皆様に御利用いただいているという状況でございます。

議長／4 番 山口 等議員

山口 等議員／ちょっと戻してもらってもよろしいですか。  
今ありましたけれども、25 年度が平均の 1.9 人、そして、昨年度、27 年度が 1.4 人ということで、以前言われていました 2 人あれば、なかなか運行自体もどうなのかなということ懸念されるというようなことを聞いたことがあります。  
そんな中で、今、みんなのバスというのは、ちょっといいですか。  
地元で、どんな方法が一番いいのかなということで、協議して運行計画をつくったと思います。  
そんな中で、実際こういう状態の乗車人数では、やっぱり住民のニーズに本当にあっていないのではということ、私自身思うんです。  
ほんとに根本的な見直しが必要だと思いますが、部長、どうでしょうか。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／みんなのバスについては、議員御指摘のとおり、運行コース、時間、これにつきましては、地域の皆さん方の御協議を踏まえて設定をされてきた経過がございます。  
当然、時期運行、25 年度からの本格運行以降も、地元の方の御意見等も踏まえて、バス停のほうを少し修正したりとか、そういった中も経過の中ではございます。  
地元の皆さん方の利用しやすいバスの時間、そういったことについては、引き続き、御協議いただければ、それにとった対策をとっていく必要があるというふうに思っております。

議長／4 番 山口 等議員

山口 等議員／先日の質問に対する答弁の中でも、オーダーメイドの時刻表を作成して、みんなのバスと、また巡回バス、これの乗り継ぎ等、資料を作成して、住民の方に少しでも多くの方に乗車していただきたいという対策というか、対応策も考えているという話もありますけれども、本当にこれだけ 1300 万くらい年間経費を使っているようなみんなのバスです。

本当に 1 人か 2 人の居場所じゃなくて、もっと皆さんが利用できるようなシステムを検討してほしいと思います。

次のまちづくりの次の質問ですが、高齢者の免許証の自主返納です。

これも一番最初の議員だったと思いますけれども、質問がなされてありました。

ほんとに今回私自身がいろんなことで被ってしまって質問しにくいですが、今は、本当に社会問題になっているこの高齢者の交通事故です。

今の高齢者の事故の状況、どういった内容か記述があるのか、再度、確認をさせていただきます。

議長／北川総務部長

北川総務部長／高齢者の事故件数ということでございまして、19 番議員さんにお答えしたものとかぶりますが、事故の検証については、佐賀県で 8561 件のうち、高齢者の事故件数は 1865 件。

武雄市におきましては 476 件のうち 101 件ということで、全体は 21.2%、5 件に 1 件が高齢者という状況になっておりまして、事故の内容につきましては、前方不注意、それから優先進行妨害、安全不確認などが主な事故原因となっております。

議長／4 番 山口 等議員

山口 等議員／だんだん年齢とともに、反射神経も反応も鈍ってきます。

我々も後方から行ったりすると、やっぱり出るんじゃないかなという車がなかなか来出なかったり、今回は発進しないだろうと思ったのに急遽発進したりとか、そういう本当に不具合がある運転をされている方も非常におられます。

ただ、今社会問題になっている高齢者の事故ですが、免許の更新は 80 歳前後になれば、本当に返納すべきか、また更新すべきか、迷うと思います。

そこに\*\*\*となれば、家族の交通事故等でお金のことを考えれば、やっぱり返納すべきじゃないか、そういうこともやっぱり車がどうしても足になっているので、孫たちの送迎もできない、そういうことでは困るということで、やっぱり更新を選ぶ方もおられると思います。

そんな中、返納者に対しては特典、市の対応は今後どのようなことを考えておられるかお

伺いたします。

議長／北川総務部長

北川総務部長／これにつきましても、お答えしましたが、やはり高齢者が返納をすることについては、個人の問題、それから周辺の心配という中で、返納をしていただいているわけですけれども、こういった判断をするにあたり、返納をすることで何かの恩典があれば、じゃあこの際やりましょうかというきっかけにでもなってもらえればということで、特典を考えていきたいということで、市長もお答えしましたが、この返納して証明書をいただくにも証明書の手数料等がまた必要になります。

それから返納することで全く動けない、足がなくなってしまうと。

足といいますか、交通手段がなくなってしまうという方もいらっしゃると思いますので、一時的ではありますがタクシー券の一時的なチケットの配布とか、いろいろ各市町で取り組みをやっておりますので、そういうものを研究していただいて、できるだけ早い機会にそういった特典についても御紹介できるような整備をしていきたいと考えております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／今のタクシー券とか出ましたが、どうしても何らかの対応がないと返納という気持ちにならないと思うんですね。

さっきも言いましたけれども、やっぱり車は生活の足なんですよ。

ちょっとこの車がないと動けないという実情があるので、それに勝るような、それなら俺も返そうというような内容な策を、ぜひ考えてほしいと思います。

これは先日の佐賀新聞にちょっと載っていましたが、高齢者の運転という中の記事をちょっと私確認してみたらこういう考えもあると思ったので、確認します。

免許の期限が切れた朝、車のない生活を実感したと。

寂しい、悔しい、情けない、恥ずかしい、自分が世の中のカンシンゼンイ(?)になったような気がする。

しかし、これからの俺は交通事故の加害者になることはないということで、安堵感を感じたと、そういったことも思われる方もおられます。

これは勇気といいますかね、そういうものをもって決断する、免許証を返さないといかんという気持ちになって、そういうことをやっていただければ、また違った気持ちにもなってもらえればいいと思います。

ただ、今高齢化社会は、どんどん進みます。

今いわれていますが、法の整備が急務じゃないかと思いますが、市長、どう思われるでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／ここは、法整備については、まさに今、お話しされました認知検査でしたっけね。

さらに、道路交通法で規制をされると、来年3月だったか、4月だったかにされるというふうに認識しております。

そのさらに先に、こういった問題に対して対応するのかというところは、あると思いますが、やはり私としては何らかの法整備が必要であると思っております。

ただ法整備をするに当たっても、そこは地方の地域の状況をしっかりと踏まえた法整備が必要であると考えております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／ほんとにこれから先は、高齢者の方もふえてきます。

ぜひ法整備もしていただいて返納を望んでいます。

まちづくりの最後の地域コミュニティについて、ちょっと質問をさせていただきます。

ことしは、災害が多く発生いたしました。

台風や地震、また集中豪雨ですね。

こういったときに必ず出てくるのが、避難所生活のこと、そういったこともすぐ話題になるわけですが、そういったときに必ず出てくるのが、地域コミュニティが一番大事ということをよくいわれます。

この地域コミュニティというのは、なかなか簡単にすぐできるようなことではございません。

それで我々の取り組みですが、今、毎朝、ラジオ体操を6時半からやっております。

近くの天満宮で6時半前に集合して、いろんなお話をしながら、毎朝、体操をやっているわけなんですけれども、約20名の方が参加されています。

そういった中で、始まる前の雑談10分足らずでございますが、いろんな日ごろの日常会話の中で、いろんな話ができて、またこの中には、80後半の方も毎日見えておられますが、そういった方が、2、3日ぐらい体操を休むようなことがあれば、ちょっと体調が悪いんじゃないかというようなことを、皆さん気遣っていただいて、その家を訪れて元気しとうねというような声を掛けられている状況でございます。

こういった毎日の取り組みの中で地域コミュニティを盛り上げていくわけなんですけど、市長こういった取り組みをどのように頑張っておられるのかお伺いいたします。

議長／小松市長

小松市長／やはり人がいてコミュニティができて、コミュニティがあつてまちができて、まちができて市があるというふうな考え方は大事だと思っております。

まさにこういったコミュニティ活動は大事だと思っておりますし、していただいている、関係性をつくっていただいていることに感謝を申し上げたいとそうように考えております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／このラジオ体操の中で今回の武雄のくらし政策課ですかね、健康ポイントも参加にも皆さんにいただいています。

非常に喜んで参加されていますが、段々仲間もふえつつありますので、ぜひこのことは続けていきたいと思っております。

次の2つ目の道路行政について質問させていただきます。

市道の歩道確保ですが、現在、工事中の武雄中学校の北側の市道山下中学校線の工事です。

これは南側にはごらんのように歩道が今、設置をされています。

これも幅員が狭かったものですから、今回広めにとるような状態で、少し車道を北側にふって、現在改良が進んでいますが、この北側、こっちのほうですね。

この北側の水路があつて、これが現状の水路ですが、大体1m50幅員があるんですが、このところを歩道に活用できないか、歩行者の安全確保できないかということですが、担当課としてどのようにお考えなのか、お伺いいたします。

議長／古川まちづくり部長

古川まちづくり部長／現在施工中の舗装修繕工事において、中学校側の既存の歩道を若干ですが、拡幅しております。

こちらの歩道を利用させていただきたいと思っております。

水路事業を利用した歩道設置については、現時点では整備を考えておりません。

今後通行状況等を注視して、歩道の必要性については検証していきたいと思っております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／この写真を見てください。

先ほどの外側線ですね。

これのところをこんな感じで、自転車ひいたり、歩行者の方もいっておられました。

特に大型車が来るときは60センチぐらいしかない。

すぐガードレールあつて。

ここは恐らく歩いたり自転車でいくというのは、とてもできないような状況です。だからぜひ、この水路のところを歩道にできないかということです。特に歩道ですので、そんなに厚いふたが要るわけでもありません。ぜひ約 20、30 メーターの距離ありますけれども、整備をお願いしたいと思いますが、市長、どのようにお考えでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／ここについては先ほど部長が答弁しましたように、中学校の整備に合わせて、向かい側の歩道を若干広げている状況なので、ぜひそちらを使っていたきたいと思えますし、地域でもぜひそちらの広いほうの歩道を使うほうがいいよということで周知等をお願いしたいと考えております。

議長／4 番 山口 等議員

山口 等議員／この周辺は、大型商業施設といいますか、そういうのもありますので、ぜひこの動向の調査をしていただいて、前向きに考えてほしいと思います。そしたらもう一つの市道の視距改良についての質問でございます。市道の本町川良線、これは武雄小学校の下の市道ですが、道路幅員が4メーターしかない。朝の通勤通学の時間帯は、一方通行、7時から8時半を押さえている道路です。これは4メーターしかないので、なかなか離合ができづらい状況のようです。この先にいくと、カーブでちょっと通りづらいところですが、現在、このように、カーブの手前の家屋が解体されまして、非常に見通しもよくなりつつあります。こういうことの状態にあるものですから、できたら用地を確保していただいて、離合場所にこういったところをしていただけないかと提案したいのですが、どう思われますか、お伺いします。

議長／古川まちづくり部長

古川まちづくり部長／御指摘のカーブ区間については、現在、家屋が解体されまして空き地になっております。カーブの街路樹、先が見にくいようなカーブなので、視距改良という捉え方をしております。まず調査、先見の検討を行いまして、用地の御協力等が得られれば、局部改良等のできるのではないかと考えています。

議長／4 番 山口 等議員

山口 等議員／ほんとにこの側溝の際まで家屋があったんですね。

これが解体することで、非常に通りやすくなっていますし、また、スピードも出す方もふえてくるが、今の時期に、ほんとその、2、3メートルの幅員でいいと思います。

そこをぜひ取得していただいて、やっぱり交通事故防止といいますか、視距改良に努めてほしいなと考えております。

ぜひよろしく願いいたします。

そしたら、3つ目の子育て支援について質問いたします。

小松市長は、このたび、全国 172 市区町村の、子どもの未来を応援する首長連合の会長に就任されました。

小松市長の決意のほどを、どのようなことを思っておられるのか、お伺いいたします。

議長／小松市長

小松市長／子どもたちに未来の希望をちゃんと用意したいと、そのように考えております。これは全国的な問題なので、全国でお互いに情報を共有して、いい政策はお互いにすぐばくってできるようなそういうプラットフォームにしたいと。

それで、武雄市はもとより日本全国が底上げされる、ここから底上げされていくと、そういうような組織にしたいと考えております。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／ほんとに、首長連合の会長さんなので、しっかりとした考えをもって、取り組んでほしいと思います。

ここ一体になるかとおもいますが、子どもの居場所づくりについてということで、今年度からなかよし川良っ子を地元で始めています。

区長さんが見えですが、先日、日曜日のことです。

おなかいっぱいカレーを食べて元気よくたこをあげようという試みをやりました。

子どもたちが約 40 名参加してくれて、1年から6年生まで、今回は、高校生のジュニアリーダーの方の協力も得て、また地元の長寿会、またシヨクサイ(?)の方も来ていただいて総勢 70 名ぐらいの方が協力をしてくれました。

たこを各自でつくって、いろんな絵を描いたり、組み立てたりして、つくっていただいて、これが、子どもたちが各自がつくったたこを、これをカレーを食べた後にグラウンドでたこ上げを初めて皆さん経験したと言っていたが、ほんとにこのときは天候もよくて、大はしゃぎの子どもたちの声を元気よく聞けました。

たこが上がって、40 メーターぐらい上がったようなたこもあったようです。

これも、今、武雄市の企画課で行っているがんばる地域応援事業補助金を活用させていただきました、これも今年度限りと聞いたが、ぜひ、補助金継続もお願いしたいが、そのことについて伺います。

議長／平川企画財政部長

平川企画財政部長／武雄市のがんばる地域応援事業補助金については、来年度につきましては、まちづくりの交付金、これとの組み合わせというか、それとの組み合わせで制度を引き続き保ちたいと考えています。

詳細については、予算等も今後詰めていくと思いますが、市長のほうからも御答弁申しているように、あわせて今年度程度ということで、答弁があっている内容のとおりでございます。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／今回、このとおり子どもたちも取り組みも市長のお子さんも見えていました。

どのように子どもさんからお聞きだったか、市長からよろしいですか。

議長／小松市長

小松市長／この川良っこについては、うちの子どもも楽しみにしています。

今、1年生ですが、1年生だけじゃなくて、まさに学年を超えて、そして、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒にいろいろ交われるということで、今回も非常に楽しみにしてまして、満足して帰っていきました。

議長／4番 山口 等議員

山口 等議員／このような取り組みが、地域はもちろんですが、学校との連携も非常に重要になってくると思います。

これから先もこういったことを続けながら、活動していきたいと思いますが、やっぱり先ほどいった、補助金の継続をぜひお願いしておきたいと思います。

子どもたちにはこの後も、今度なんばしてくるという声が非常に期待もしています。ぜひ今後ともそういう補助金の継続を常にお願ひして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

議長／以上で、4番 山口 等議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。